

氏名	山 本 仲 吾		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2579 号		
学位授与の日付	平成 5 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	類型学的にみた斜角筋, 腕神経叢, 鎖骨下動脈の相互関係		
論文審査委員	教授 徳永 勲	教授 佐々木順造	教授 井上 一

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

日本人成人死体227体454側の斜角筋隙を解剖調査し、1) 頸椎横突起後結節から起って前斜角筋に加わる外側筋束群 a～e と、2) 頸椎横突起前結節から起って中斜角筋に加わる内側筋束群 f～j 群があることを確認した。そして、これら内側筋束群 f～j と外側筋束群 a～e は腕神経叢の根部との関係で、規則正しく配列することを発見した。このことに加えて血管発生を考慮して、斜角筋隙における筋束群、腕神経叢根部、鎖骨下動脈の類型解剖学的原因を作成した。そして、この原因によって、当該部にあらわれる筋、血管、腕神経叢根部相互の位置的破格を説明した。なお、最小斜角筋は鎖骨下動脈によって裂かれ分離する前斜角筋の一部であるとした。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、解剖実習に献体解剖された日本人成体の斜角筋隙を肉眼解剖学的に調査したもので、頸椎横突起後結節から起こる前斜角筋の外側筋束群と頸椎横突起前後結節から起こる中斜角筋の内側筋束群、腕神経叢根部および鎖骨下動脈相互の位置的破格を詳細に記載し、さらに血管発生を基にした類型解剖学的原因を作成してこれらの破格の成因を説明する等、従来の肉眼解剖学成書には十分に記載されていない重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。